



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No5
文責 芹川博文
5月9日(金)

上級生がモデルとなる空気感

ゴールデン・ウィーク明けの5月7日(水)、正門に立ってしばらくすると、6年生が朝のボランティア活動を始めました(右の写真)。隈府小で長年続いている活動の一つです。そう言えば、わが子も「今日は朝ボラのあるけん」と言って、早く支度をしていた記憶があります。連休明けの朝はいつも以上にエネルギーが要るはず。大変と言えば大変です。しかし、その「大変さ」を長年続けてきた意味と奥深さを感じます。一つの事をみんなで継続する事、学校という生活する場をきれいにする事、自分以外の誰か(何か)のために頑張る事は、「いかに快適に無駄を省くか」という価値観も感じられる現在、貴重な体験となるでしょう。隈府小学校には、他にも、朝から挨拶運動やゴミを拾って回る児童会活動として行っている姿に出会います。子どもたちが係の責任を果たしている姿は、眩しく頼もしさを感じます。



そのような中、新たに目を見張る光景と出会いました(右の写真)。上級生の挨拶運動に、下級生が加わって一緒に挨拶していました。見たところ上級生の数は4人。それに対して、下級生の数は10人を超えていました。下級生にとって上級生の姿は、「何をやってるの?」「面白そう!」「自分もやってみたい!」という好奇心を掻き立てられるのでしょうか。いわゆる「フォロアー」です。このような「フォロアー」としての経験が、いつの間にか下級生が上級生を目標とする空気感、上級生がモデルとして下級生を引っ張っていく空気感になることでしょう。週1回の朝ボラの中に、たくさんの学びが詰まっていることを感じました。保護者の皆様、朝からの送り出しは大変かと思いますが、ご協力いただきありがとうございます。



ファーストペンギン、セカンドペンギン、どちらも大切

ファーストペンギンとは、集団で行動する群れの中で、勇気をもって最初に海に飛び込むペンギンのこと。「勇敢なペンギン」として大切です。しかし、その次に「フォロアー」として続くセカンドペンギンも同じくらい大切です。次に続くことで「群れ全体が動く流れ」が生まれるからです。ファーストペンギンの存在だけでは、群れ全体は動きません。

そう思うと、用心深いサードペンギンも、「だれも置き去りにされていないか」を確認して最後に飛び込むラストペンギンも大切な存在です。

一人一人の性格やその時々で役割は変わります。子どもの時に、様々な役割を経験することの大切さを感じます。



運動会に向けて動き出しました

運動会に向けて結団式があり、練習が始まりました。子どもたちが楽しみになる運動会であってほしいと願います。

ちなみに私は走るのが遅く、小学校の徒競走では毎年、間を空けて最後でした。前日も夜道を走って練習すると、「速くなったかも」と思うのですが、やはり結果は変わりませんでした。それでも弁当の時間に迎えた親は、「よか、よか」と言ってくれました。結果だけでなく、努力や思いをくんでくれたことに感謝します。大人になった(年をとった)今、走ることが嫌いでないのも、あの時の「よか、よか」のおかげかもしれません。

